



地域医療連携室だより

Vol.156



発行元 地方独立行政法人
市立大津市民病院 地域医療連携室
住 所 〒520-0804
滋賀県大津市本宮二丁目9番9号
電 話 077-526-8192
F A X 077-522-0192 発行日:2022年5月1日

市立大津市民病院 検索

だより内に  が 5ヶ所登場しています。ぜひ探してみてください。疫病退散。

新任のご挨拶

ひ の あきひこ
市立大津市民病院 院長:日野 明彦



この度、4月18日より市立大津市民病院に院長として赴任した日野明彦です。済生会滋賀県病院で28年間、脳神経外科医を務め、この2年間は新型コロナ対策を担当していました。長文になりますが、考えていることをいくつか述べさせていただきます。

優先順位を考える

私達は、やりたいこと、やるべきことを全て同時に達成することはできません。あちら立てればこちら立たずというのが世の常です。いつも、何かを後回しにしたり、諦めたりする決断が必要になります。“優先順位”の間違いはトラブルを招きます。トラブルは、組織の指導者たちが狭い視野で自分たちの権益や体面を優先した結果だと思えます。病院業務では、収益、学術、教育、評判、医師を派遣する大学医局、院内秩序など、配慮することはたくさんあります。しかし、目の前の患者さんをしっかり診ること以上の優先事項はありません。

現場で考える

管理職の本質は“裏方さん”だと思います。現場の職員が働きやすい環境を整えることが仕事です。そのためには、現場に出向き、現場の意見を聞き、現場で何が起きているのかを確認することが不可欠と思っています。

赤字体質

当院は長年の赤字体質を抱えています。一因は、採算のあがりにくい、しかし市民にとって不可欠の医療分野を担っていることです。例えば感染症病棟は通常は代表的な不採算部門ですが、新型コロナパンデミックでは、当院は滋賀県民に最大の貢献を果たしてきました。もちろん、市民の税金で運営される以上、徹底的に無駄を省く努力は不可欠です。現場にどんな非効率があるのか？ 改善のためにどんな工夫が出来るのか？を常に考えたいと思います。

医師大量退職問題についての私見

私が当院の医師大量退職を知ったのは3月のネットニュースでした。当時は全くの他人事で、まさか自分がその病院に着任するとは思っていませんでした。どんな職場であれ、管理者から理不尽な扱いを受けた職員が反発するのは当然です。

病院の運営にとって、医師の確保は生命線です。私が率いていた病院の脳神経外科は、嘗て10年以上にわたって大学医局から離れていました。医師の派遣は打ち切られ、残った少数の医師で専門医を育て、関東から若手医師を集めて24時間365日の診療を続けました。今では大所帯になっていますが、存続の危機は何年も続きました。診療現場では、医師の出身医局など何の意味もありません。必要なのは医師としての技量と患者さんを助けたいという熱意だけです。



多くの医師が離職する今回の騒動は、当院に大きなダメージをもたらしました。不安に駆られる患者さんや、前途を悲観する職員の声も届いています。病院はつぶれるのではないかと、トラブルを抱えた病院でちゃんと診てもらえるのか？ そのような声も聞きます。しかし、一方に病气やケガに苦しむ市民がいて、片方に診療に力を尽くしたい医療者がいる限り、私たちの仕事は続きます。

当院には、地域医療の現場で献身的に毎日働いている 800 人以上の職員がおります。何人かの医師は残留を表明してくれました。着任してすぐわかったのは、当院には優秀で労を惜しまない職員がたくさんいるということです。私の責務は、この人たちを支え、少しでも働きやすい環境を整えることだと思っています。それ以上に、病院で日々診療を受けておられる市民の皆様がおられます。どうかこの人たちに御配慮いただき、皆様にご支援いただけることを切に願っております。

地域全体で考える

医療は専門化、細分化が進んでいます。今や、一つの医療施設で多岐にわたる地域医療を賄うことは不可能になっています。幸いなことに、当院の近隣には 3 つの公的病院があり、それぞれに得意分野が違います。これらの病院と連携し、機能分担を進めながら、一つの病院単位ではなく、地域全体の医療体制を整えたいと考えています。

確かに当院は危機に直面していますが、職員の士気は上がっています。組織を根本から見直すような改革は、たいてい危機の時に達成されます。当院は、市民による市民のための病院です。当院の運営について、ご提言、ご助言などございましたら、お気軽にご一報いただくようお願い申し上げます。

現況と今後の診療体制

今回のトラブルに附随して、退職が想定された診療科は下記の通りです。

消化器外科については、すでに同数の交代チームが着任して働いています。6 月に退職予定の乳腺外科医師 1 名については、常勤医師招聘を調整中です。脳神経外科 4 名は 9 月に退職予定ですが、私自身が脳神経外科医ですので、一般的な脳外科分野は自分で担当します（キャリア 40 年、数千件以上の脳外科手術を経験しています）。なお、当院の脳神経外科はもともと脊椎外科を主分野としておりましたので、今秋に脊椎外科チームの招聘を検討します。泌尿器科は 9 月に退職予定ですが、最終日まで全力で診療を続けることを宣言しています。円滑に交代をすべく調整中です。神経内科も退職の意向を表明していますが、時期は未定です。麻酔科、放射線診断科は残留が決まりました。

その他の診療科には、今回のトラブルに附随して退職する医師はいません。退職を余儀なくされながらも最終日まで職務遂行を表明してくれた医師達、残留を表明してくれた医師達、個人的に当院への着任を申し出てくれた医師達、さらには交代チームの派遣を快諾してくれたいくつかの医療機関のおかげで、当院はこれまでどおりの職務を遂行できます。少し時間はかかるかも知れませんが、以前よりもさらに陣容を充実させて、市民のお役に立ちたいと思っています。

2022 年 4 月 27 日

市立大津市民病院 院長

日野明彦





新任部長就任のご挨拶



2022年4月、新任部長を本人のコメントとともにご紹介させていただきます。
皆様、どうぞよろしくお願い致します。



外科・消化器外科 診療部長: 廣川 文鋭

2022年4月1日より市立大津市民病院の外科診療部長として着任いたしました廣川文鋭です。

私は和歌山県和歌山市出身で、1993年に和歌山県立医科大学を卒業後、同大学ならび関連病院で消化器外科全般の研鑽を積み、2000年には京都大学で肝移植を学び、2004年から2006年にかけて和歌山県立医科大学高度救命救急センターで外傷・腹部外科のチーフとして診療を行ない、その後2006年からは大阪医科薬科大学に異動し、肝移植だけでなく、肝臓・胆道悪性腫瘍の治療を中心に、約1500例(内600例の高難度手術)の手術を担当すると共に、肝胆膵領域への腹腔鏡手術も全国に先駆け導入し、腹腔鏡下肝切除・膵頭十二指腸切除も、国内トップクラスの症例数を経験しております。さらに従来の腹腔鏡手術に比べても整容性と術後疼痛に優れている単孔式手術も、良性胆嚢疾患を中心に行ってまいりました。

市立大津市民病院での抱負としては、今までの経験を踏まえ、高難度な手術治療を提供することは当然でありませんが、高齢がん患者に対する取り組みや低侵襲な単孔式手術の導入など、より地域に貢献できるような外科治療を目指し、各診療科との連携をはかり、今まで以上に病院一丸となって、地域の先生方と『大津市民の健康』を守って行きたいと考えております。何卒よろしくお願いいたします。



呼吸器内科 診療部長: 竹村 佳純

平成8年度、京都府立医科大学卒。卒業後、旧第2内科で研修を終えた後、呼吸器内科学へと進みました。

呼吸器疾患は幅が広いと言われますが、卒業後26年、大学付属及び関連の病院で、呼吸疾患全般の診療を経験しました。中でも、最近では悪性腫瘍に対する治療薬の開発が進み、それに必要な内視鏡診断の進歩とともに、当科の専門性が生かせる分野と考えています。

病病・病診連携を通じて、地域の呼吸器診療にお役に立てるよう、頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



産婦人科 診療部長: 安尾 忠浩

2000年に京都府立医科大学を卒業し、大学スタッフ、京都第一赤十字病院を經由し、産婦人科常勤医師として赴任してきました。

生まれは兵庫県ですが、近江八幡市や栗東市で勤務経験があり、滋賀県大津市に住居を構えて14年目になります。周産期医療を中心に診療を行っていましたが、全般的に対応可能です。ただ現在は常勤1名と非常勤2名(ともに女性ですが1名は育児休暇中)の構成ですので、分娩を再開とするのは難しく、どの程度みなさまのお役に立てるかわかりませんが、病診または病病連携を積極的に行っていきたいと考えております。

今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



新規採用医師のご紹介

2022年4月、新規採用医師を本人のコメントとともにご紹介させていただきます。
皆様、どうぞよろしくお願い致します。

外科・消化器外科 医長: ^{おおすみ} 大住 ^{わたる} 渉



外科・消化器外科 医長 大住渉です。

2006年に大阪医科大学卒業後、同大学附属病院にて卒後臨床プログラムを経て2008年に一般・消化器外科に入局しました。その後大学・関連病院にて勤務・研鑽を行い、前職は2018年から帰局し4年間下部消化管グループにて勤務し、低侵襲で患者様に優しい腹腔鏡やロボット支援下の鏡視下手術を専門に行っていました。

病病・病診連携を通じて、地域の消化管診療にお役に立てるよう、頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

外科・消化器外科 医長: ^{かごた} 駕田 ^{しゅうじ} 修史



2022年4月より市立大津市民病院 外科・消化器外科医長として赴任しました。私は2009年に大阪医科大学を卒業し、大阪府済生会吹田病院で初期研修を行いました。その後大阪医科大学一般・消化器外科に入局し、関連病院で外科・消化器外科全般の研鑽を行い、2018年より大阪医科大学肝胆膵グループで勤務してきました。今までの経験を活かし、地域医療に貢献できるよう急性腹症を含めた緊急対応もできる限り対応していきたいと考えています。

宜しく願い致します。

小児科 医長: ^{さかうえ} 阪上 ^{さとし} 智俊



地域の皆様、初めまして。

小児科医として今年度赴任しました、阪上智俊と申します。

専門は小児神経ですが、小児科に関することなら何でも対応させていただきます。

患児、親御さんのご不安が少なくなるように、丁寧に説明することを心がけています。

よろしくお願い致します。

放射線科: ^{ふじもと} 藤本 ^{じゅんぺい} 順平



2014年京都大学卒。

大津赤十字病院で過去3年間の赴任歴あり。

専門はIVR・画像診断。

座右の銘は融通無碍（ゆうづうむげ）。

市場部長と当科スタッフと共に、ハイクオリティな画像診断で、大津市に最高の医療を提供すべく努力する所存です。





皮膚科: 古谷 佳美



2022年4月より皮膚科常勤医として赴任いたしました。

丁寧な診察を心がけ、皮膚科医として皆様により良い医療を提供できるように努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

内科: 佐々木 裕二



4月から大津市民病院に赴任しました、腎臓内科の佐々木裕二と申します。

慢性腎臓病、血液透析・腹膜透析を専門にしています。患者さんの気持ちに寄り添い、地元の天津地域の皆様に貢献できるよう努力して参ります。よろしくお願いいたします。



救急診療科

集中治療部: 中田 康貴



今年度より大津市民病院救急診療科に所属となりました中田康貴と申します。

2017年に大阪医科大学を卒業後、京都医療センターでの初期研修を経て京都府立医科大学救急医療学教室に所属しております。

ICUとERでの診療で多くの先生方やスタッフの方々にお世話になるかと思います。

何卒よろしくお願いいたします。



患者相談支援室が新しくなり、本館2F Eブロック前に移転しました。

患者相談支援室は、当院をご利用いただく患者さんやご家族が、安心して治療を受け、より快適な療養生活を送っていただくための相談窓口です。ご相談内容に応じた各専門職の担当者が、ご相談者の気持ちに寄り添いながら相談に応じるとともに、必要な支援をさせていただきます。

がん相談では、がんや様々な病気に関する不安や悩みのご相談に看護師や専門スタッフが対応いたします。

また、がん関連の図書の閲覧など、がんに関する情報提供をはじめ、くつろぎながら資料など閲覧できる空間を提供しています。

患者さん、ご家族をはじめ、地域の方々はどなたでもご利用いただけます。



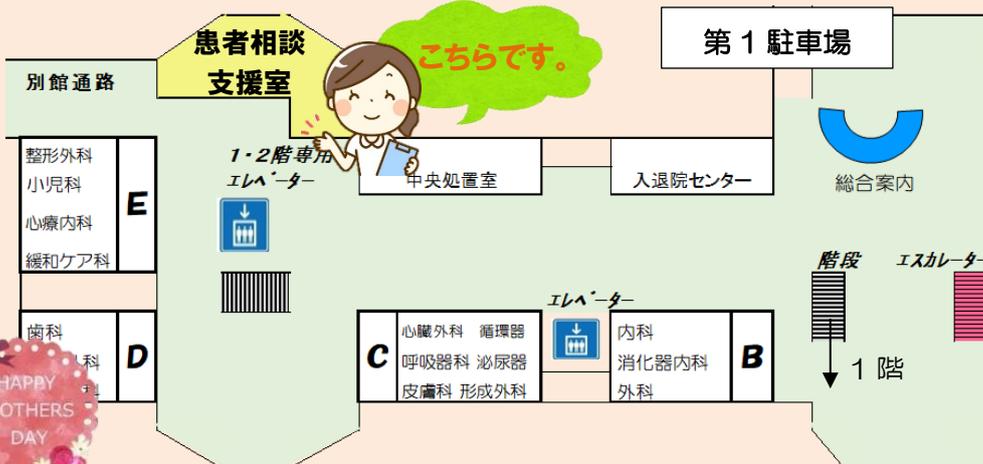
患者相談支援室正面（入口）



がん関連図書閲覧コーナー



面談室



MSW アイコさん

FLOWER

作・画 まきろん



クイズの答え: 2ページ目 右下/3ページ目 左上/4ページ目 右上/5ページ目 相談支援室紹介 タイトル右/6ページ目 MSW アイコさん タイトル中央

※マスクは外して描いています。

COVID19-PCR 検査結果の陰性検査番号 一覧を病院ホームページに掲載しています

検査後に「患者説明書」を配布しています。

着任のご挨拶

ほった みき
地域医療連携室 室長:堀田 美紀



令和4年4月1日付けで市立大津市民病院地域医療連携室長を拝命致しました。

私はこれまで外来、病棟で看護師として勤務し、令和元年から緩和ケア病棟で病棟管理に携わってまいりました。

地域医療連携室では地域の先生方からの診察や検査の予約、紹介状や逆紹介、返書の管理などの業務と、患者・病院・診療所とそれぞれに連携し、地域の皆様の健康と生活を支えることができるよう業務を行っておりますが、地域医療連携室での業務は初めてとなります。不慣れで皆様にご迷惑をおかけすることあるかと存じますが、微力ながら努力精進致します。

今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



Mother's Day

